

別 当 山 遺 跡

—第 1 次調査—

久留米市文化財調査報告書 第219集

2006. 1

久留米市教育委員会

序

久留米市の東部に位置する山川校区は、南は高良山北麓、北は筑後川に接し、古くは旧石器時代にまで人々の営みが遡る地域です。平成9年に国の天然記念物に指定された水縄断層を始め、貴重な遺跡が数多く眠る地域である。本地において今回民間の宅地開発に伴い別当山遺跡の発掘調査が終了し、調査報告書を刊行するのはこびとなりました。

今回の調査によって、付近一帯の歴史のひとこまを垣間見ることの出来たことが、今後付近の歴史を解明するにあたっての貴重な資料としての役割を果たす一端を担うことを期待しています。

なお、末尾にはなりましたが、久留米市の文化財保護行政に対し、ご理解・ご協力いただきました地主様はじめ、関係各位に対し厚くお礼申し上げます。

平成18年1月31日

久留米市教育委員会
教育長 石川 集充

例 言

1. 本書は、宅地造成工事に先立って、久留米市教育委員会が受託事業として平成17年度に発掘調査を実施した報告書である。
2. 発掘調査は久留米市教育委員会が主体となり、久留米市文化観光部文化財保護課松村一良、塚本映子が担当した。
3. 本書に掲載した図面の作成、製図は、塚本、非常勤職員の畠中和子、原田志保が行った。
4. 遺構の写真は塚本が撮影した。遺物の撮影は園井・塚本が行った。
5. 本書に掲載した遺構実測図は、国土調査法第Ⅱ座標系を基に作成し、図面の方位はすべて座標北を示す。また、遺構の略記号は、SK…土坑、SP…柱穴およびピットを示す。
6. 調査に関わる遺物や記録類は、久留米市埋蔵文化財センターに収蔵・保管されている。
7. 本書に掲載した遺跡の略記号と調査番号は、それぞれBTY-1・200505である。
8. 本書の執筆・編集は塚本が行った。

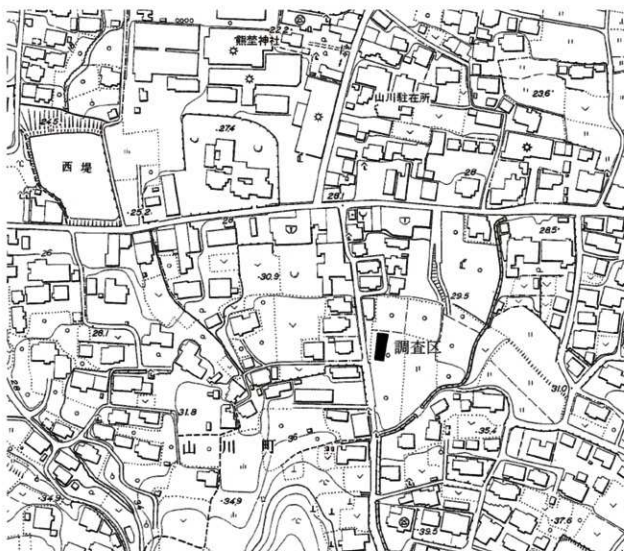
本文目次

I. はじめに	1
II. 遺跡の位置と環境	3
III. 調査の概要	6
1. 遺構について	6
2. 遺物について	8
3. 所見	12

I. はじめに

1. 調査にいたる経緯

分譲住宅による宅地開発に伴い、平成16年11月1日に■■■■氏より当該地内に埋蔵文化財の有無があるかについて、事前審査の依頼書が提出された。照会を受けた地域は、周知の埋蔵文化財包蔵地（別当山遺跡）にあたり、事前の確認調査を平成16年11月12日に実施したところ、分譲予定地内のうち南側部分についてピットなどの遺構が確認された。北側部分については一部のみの確認調査しか出来なかったが、以前の確認調査時のデーターを基に対象外地と判断した。依頼主等と遺構が確認された部分について協議を行った結果、現状保存が出来ないということであったため、事前審査対象地2,159㎡のうち基礎工事により削平を受ける135㎡を調査対象とし、平成17年度に別当山遺跡第1次調査を実施した。平成17年5月13日に重機を投入し、平成17年6月2日に調査を終了した。



第1図 別当山遺跡調査地点位置図 (1/2,500)

1. はじめに

2. 調査の体制

別当山遺跡第1次調査における体制は次のとおりである。

調査主体：久留米市教育委員会	教 育 長	石川 集充
調査総括：久留米市文化観光部	部 長	緒方 慎一
文化財保護課	課 長	関 知彦
	課長補佐	立石雅文（課主査兼務）
	事務主査	松村一良・大石 昇・近澤康治
	庶務担当	権藤節子
	調査担当	塚本映子
	出土品整理	畠中和子・原田志保（非常勤職員）

発掘調査臨時職員

石井紀美子・井上登志男・江頭敏・江崎由美子・財木美智子・高尾春代・高橋有嘉子・田中鹿雄・田中樹子・出口みどり・原良子・原田幹雄・藤本幸子・堀田秀実・丸山幸・溝上国男・宮崎文利・芳野ヒサ子・渡辺やつ子

出土品整理臨時職員

吉田麻矢

調査にあたり、地主である■■■■氏および有限会社・豊福外森不動産様には久留米市の埋蔵文化財発掘調査についてのご理解とご協力を頂いた。



別当山遺跡第1次調査区全景（北から）

II 遺跡の位置と環境

別当山遺跡は、久留米市の東側に連なる耳納連山の北麓、山川町字南迫分に所在している。耳納連山の西端には高良山が聳え、その北麓には水縄活断層が東西方向に走っており、断層によって形成された急斜面が多く見られる。そのため、多くの谷が形成され、複合扇状地が発達している。本遺跡はその扇状地に立地し、標高は32～33mを測る。

本遺跡の周辺には、旧石器時代から縄文・弥生・古墳・歴史時代に至るまで、数多くの遺跡が点在している。特に、高良山北麓斜面一帯には、古墳時代と平安・鎌倉時代の墳墓・散布地が集中して知られている。代表的な周辺遺跡としては、北西約1.6kmの筑後川左岸の自然堤防上には、旧石器、縄文時代早期～後期、弥生時代中期～後期に及ぶ甕棺墓と祭祀遺構が確認された安国寺遺跡（国指定史跡）が所在する。この他、周辺遺跡の中には、西側約700mに『日本書紀』天武七年十二月条に記載のある筑紫大地震の震源となったと思われる断層が発見された山川前田遺跡（平成9年に国の天然記念物に指定）等がある。

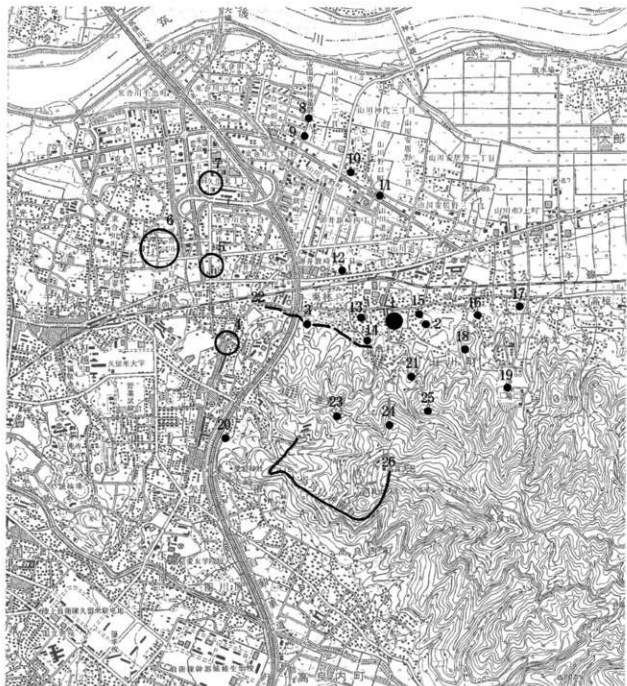
この他の周辺遺跡に目を向けてみると、縄文時代としては、北西約1.0kmに、縄文時代前期～後期の集落遺跡である野口遺跡が所在する。この他、松ヶ本遺跡からは縄文早期の集石遺構が確認され押し型文土器も出土している。

弥生時代になると、銅剣の出土地と推定されている大島遺跡、前期の土坑が検出された新婦遺跡が所在している。遺跡周辺を見渡してみると、国道210号線を挟んで遺跡北側には多くの旧石器・縄文・弥生時代の遺跡が点在するが、本遺跡周辺部ではあまり確認されていない。平成6年度・平成8年度・平成9年度に本調査が実施された山川南本村遺跡が確認されたことにより、その広がりをみせつつあるものの今後の事例の増加が待たれる地域である。

古墳時代になると、後期に群集墳が耳納山地北麓に爆発的に築造されるようになり、集落遺跡としての事例は少ないものの多くの遺跡が見られるようになる。時代がくだるにつれて人々の生活範囲が川周辺から耳納山麓に向かって広がりを見せていく過程が辿れるのではなかろうか。しかし、古墳時代後期に造られた群集墳は現在その大半は消滅しており、現存するものは少ない。消滅した古墳の中には、円墳と思われる北栗林古墳、円墳と思われる別当山古墳、円墳と思われる本村古墳、剣や槍の出土が伝えられる城の前古墳、巨石が2個露出していた城谷古墳、竹の子古墳・鶴ヶ城古墳などがある。この他に、現存する古墳としては七曲山古墳群がある。七曲古墳群は、標高60～80mの尾根上に築造された5基から構成される古墳群である。刎頭は円墳・方墳がみられ、内部主体も小型の竪穴式石室・箱式石棺・組合せ式木棺と多様である。出土遺物などから築造年代は4世紀末～5世紀前半と思われる。

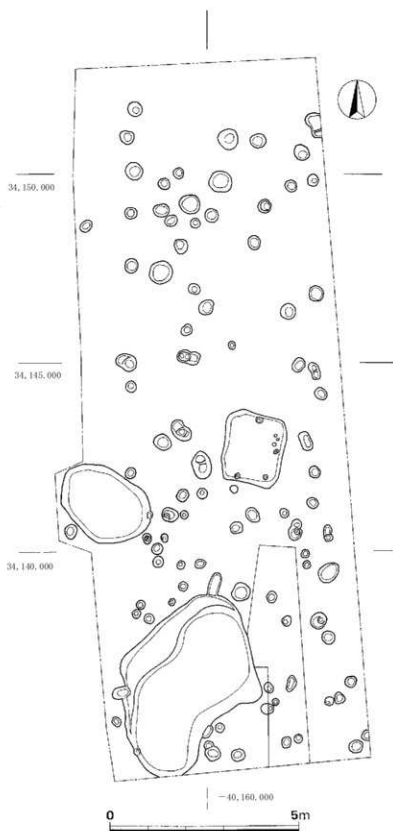
歴史時代になると、奈良・平安時代の集落遺跡、鎌倉・室町時代以降の集落遺跡・山城跡が多く見られる。北側平野部には、律令期の条里制の地割跡が随所に認められ、平安時代の郷名でもある「神代」の地名も残されている。神代の地には鎌倉時代に筑後川の渡河施設であった「神代の浮橋」が古い縁起に描かれており、それを管理した神代氏の居館跡も存在する。南北朝の時代になると、安国寺が創建され、高良山北斜面の小高い尾根付近には古宝殿城跡・鶴ヶ城跡・吉見岳城跡等の山城が築かれている。

II. 遺跡の位置と環境



- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 1. 別当山遺跡 | 2. 山川南本村遺跡 | 3. 山川前田遺跡 | 4. 二本木遺跡 |
| 5. 神道遺跡 | 6. ヘボノ木遺跡 | 7. 下見遺跡 | 8. 安国寺遺跡 |
| 9. 松ヶ本遺跡 | 10. 野口遺跡 | 11. 木島遺跡 | 12. 新婦遺跡 |
| 13. 北栗林遺跡 | 14. 別当山古墳 | 15. 木村古墳 | 16. 城の前古墳 |
| 17. 竹の子古墳 | 18. 城谷古墳 | 19. 七曲山古墳群 | 20. 祇園山古墳 |
| 21. 鶴ヶ城古墳 | 22. 水縄断層 | 23. 吉見岳城跡 | 24. 古宝殿山城跡 |
| 25. 鶴ヶ城山城跡 | 26. 高良山神籠石 | | |

第2図 別当山遺跡周辺遺跡分布地図 (1/2,500)

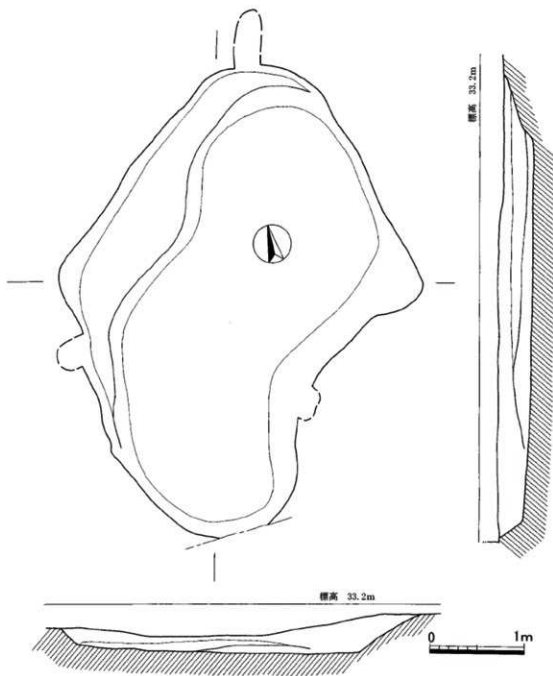


第3図 遺構位置図 (1/100)

III 調査の概要

1. 遺構について

今回の調査において、ピット数十基、土坑3基を確認した。ピットについては、一部掘立柱式建物が建つように思われるところもあったが、柱間が均等でなく、壁高もばらばらなため、今回は建物が建つとしては取り扱わなかった。以下、土坑についての報告をしたい。



第4図 SK11 (1/40)

土坑

SK11（第4図・図版1）

調査区の南側にて検出された。不定形な楕円形のプランを呈する。長径約5m、短径約3m、壁高約40cmを測る。出土遺物には土師器の杯、蓋、甕、甔、須恵器などがある。また、遺構面中段付近にて出土した輪羽口があるが、遺構西壁付近に僅かに焼土を確認している。しかしながら、奇しくもその部分については確認調査時トレンチを入れた際に堀さげを行った部分であり、土坑付近にたまたま鍛冶施設があったのか、廃棄によるものかは判らない。また、出土した遺物の中に4点ほどではあるが、器内面にスタンプを施した土器が見つかっている。出土遺物は下層にいくほど出土量が多くなっていたが、下層から出土の遺物は床面から10～15cm浮いた状態で出土した。



図版1 SK11（北から）

SK12（第5図・図版2）

調査区の東側にて検出された。隅丸の楕円形のプランを呈する。長径約2.5m、短径約1.8m、深さ約42cmを測る。出土遺物には土師器の杯、蓋、甕、甔、須恵器などがある。出土遺物からみて、SK11と同時期の遺構と思われる。この遺構からもSK11同様、器内面にスタンプを施した土器が1点見つかっている。



図版2 SK12（西から）

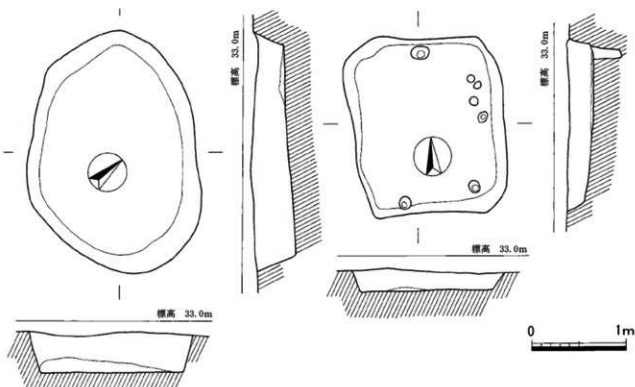
SK64（第5図・図版3）

調査区西側にて検出された。隅丸方形のプランを呈する。長軸約1.8m、短軸約1.6m、壁高約22cmを測る。残存状況があまりよくなく、出土遺物も少ないため、前述の遺構との関連性は今回の調査では把握出来なかった。図示はしていないが、床面付近に20cm程の石が出土している。枕石かとも思ったが、土坑墓であるかどうかは判っておらず、またこの地の地山が多くの礫を含んでいることから流れ込みによるものの可能性もある。



図版3 SK64（北から）

Ⅲ. 調査の概要



第5図 SK11 (1/40)

2. 遺物について

今回の調査において出土した遺物の量はコンテナ6箱になる。主な遺物はSK11とSK12から出土している。土師器の坏、蓋、皿や須恵器の坏、蓋などが多く出土した。遺物の中には、周辺部からの流れ込みと思われる黒曜石などが表採・表土から数点確認されているが、今回の報告からは割愛した。また、ビットからも数点ではあるが、土師器片などが出土している。今回は図化するに至らないものばかりであったため、図化出来た数点を除いて報告からは割愛している。

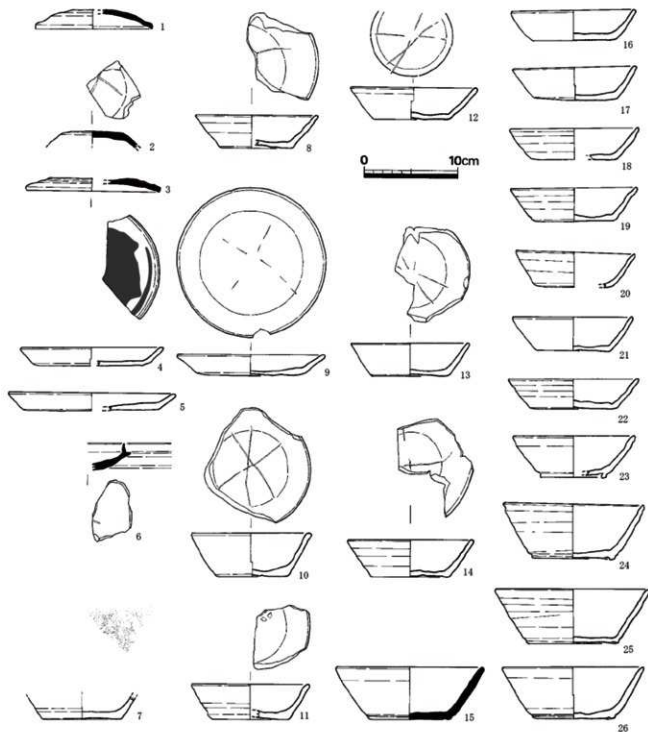
SK11・SK12については坏の占める割合が各遺構出土遺物量の6割程である。全体的にみると杯の割合が多く、須恵器は全体の数パーセントの割合でしか確認されなかった。

SK11 (第6図・第7図・図版4・5)

コンテナ3箱程の遺物が出土した。主な器種には土師器の坏、蓋、皿がある他、出土数は少ないが、須恵器の坏、蓋などもある。今回出土している高台付きの坏の高台は削りだしによるものであり、器外形はケズリが鋭くシャープである。坏・皿の底部はヘラ切りをおこなう。

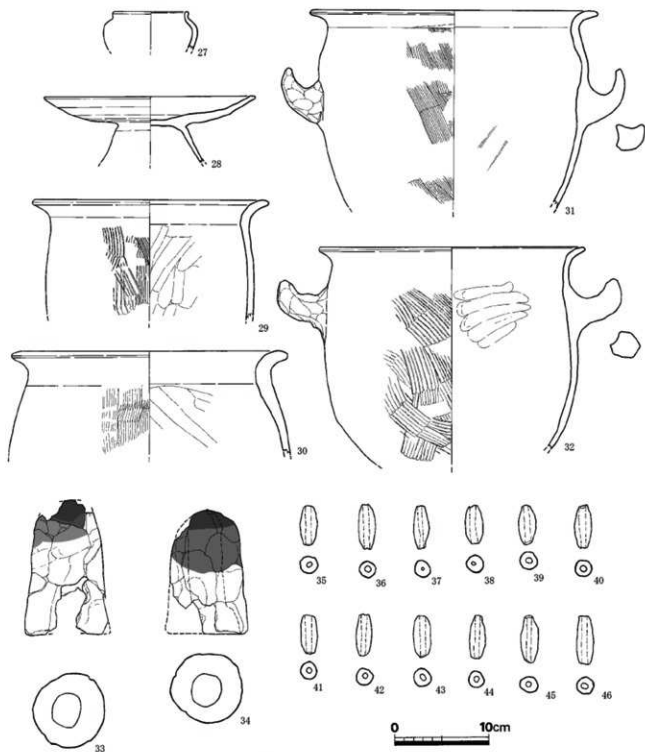
また、土師器の坏・蓋の中には、器内面にスタンプを施したものが4点ほど出土している他、全てを図化はしていないが、ヘラ記号を施すものも53点出土している点は、当遺跡や遺構の性格を考える上で貴重な資料であろう。

甕、甔も出土している。遺構面より満遍なく出土しているが、今回報告した遺物の出土地点としては遺構下層付近である。甕や甔の出土で生活遺構かと考えたが、出土状況からは廃棄されたものと捉えている。なお、遺構中段付近より輪羽口2点が出土している。土鏝は総数43点を数え、その重量はそれぞれ5～15g程の重さを測る。本報告書掲載出土遺物の個別の説明は出土遺物観察表を参考にしてもらいたい。



第6図 SK11出土遺物図 (1/4)

Ⅲ. 調査の概要



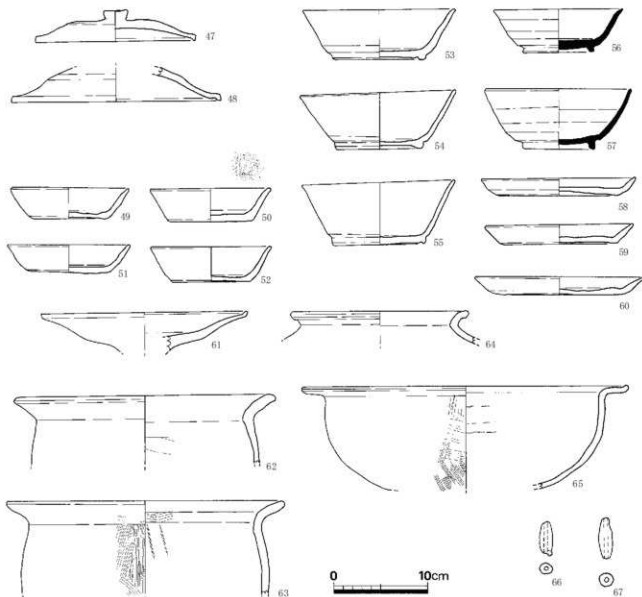
第7図 SK11出土遺物図 (1/4)

SK12 (第8図・図版5)

コンテナー2箱程の遺物が出土した。主な器種には土師器の坏、蓋、甕、須恵器の杯、蓋などがある。遺物の中には石器片も出土しているが、地山への流れ込みと思われるため、今回の図化からは割愛している。なお、SK11同様に器内面にスタンプを施したものが1点出土している。全て細片のため図化はしていないが、ヘラ

記号を施すものも6点出土している。また、SK12より出土の高台付き杯の高台部分も全て削りだしによるものである。器外形はケズリが鋭くシャープである。

遺構下層からほぼ完形に近い杯が数点出土している。遺構の底面からの出土ではないことや、出土状況からみると、遺構に伴うというよりはむしろ廃棄によるものではないかと考えている。



第8図 SK12出土遺物図 (1/4)

Ⅲ. 調査の概要

SK64 (第9図・図版5)

土師器の坏、皿が出土した他、内黒の坏細片も出土した。図化出来るようなものがなく、今回は2点のみの報告とした。

SP41 (第9図・図版5)

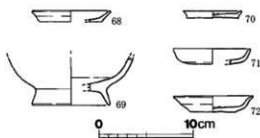
土師器の皿及び土師器片数点が出土した。遺構中段付近より出土している為、流れ込みによるものであろう。

SP46 (第9図・図版5)

土師器の皿及び土師器片数点が出土した。遺構中段付近より出土している為、流れ込みによるものであろう。

SP61 (第9図・図版5)

土師器の皿1点が出土した。口縁付近と器外面に煤のようなものが付着しており、灯明皿であろう。この遺物も流れ込みによるものではないかと捉えている。



第9図 SK64・SP41・SP46
SP61 出土遺物図 (1/4)

4. 所見

今回の調査では、8～9世紀代の遺物を中心とした遺構を確認したが、調査区135㎡と些少な面積の調査であったため、本遺跡に対する詳細なデータをとる事は出来なかった感が否めない。

性格の判別出来る遺構が確認されていないため、遺跡全体の位置付けをすることが難しいが、出土した遺物にはほぼ完形に近い土師器や須恵器の坏が出土している他、器内面にスタンプを施した非日常品と思われる遺物の出土や、1点の破片のみではあるものの、転用碗の破片が出土していることなどから、当遺跡近辺に推定する説もある山本郡衙の存在が考えられるほか、現在みられる高良大社の社殿の位置が江戸時代、万治三年（一六六〇）久留米城主有馬頼利によって建てられたものであり、調査地東を南北に走る道路が現高良山裏の鳥居に向かって走っていること、古くは『日本書紀』大宝二年十月の条に出てくる「大宰府所部の神九処に祈祷す」の九神のなかに高良神を比する説もあること、別当山の地名の由来とも言われている別当は高良山の座主・第12代が座主を称する以前は別当とよばれていたことなどから、当時の高良大社に所縁のある人々や郡衙に所縁のある識字層の人々が集落を営んでいた可能性も考えられる。

いずれにしても、前述したとおり、調査面積が査証であり、周辺の発掘調査例も少ないことからあくまでも仮説の域をでない。別当山遺跡の周辺発掘調査の事例も少なく判断材料が乏しいため課題の多く残る調査となった。今後の周辺調査の成果を期待したいところである。

<参考文献>

久留米市『久留米市史』第1巻

久留米市教育委員会『山川南本村遺跡』久留米市埋蔵文化財調査報告書第148集 1999

久留米市教育委員会『山川前田遺跡』久留米市埋蔵文化財調査報告書第163集 2000

別当山遺跡出土遺物観察表①

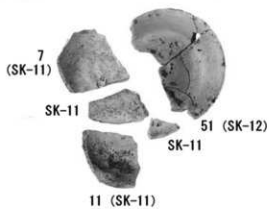
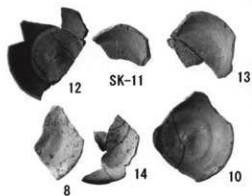
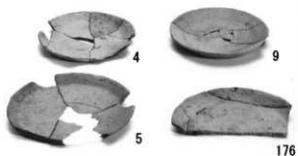
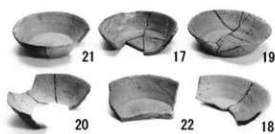
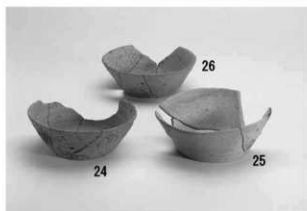
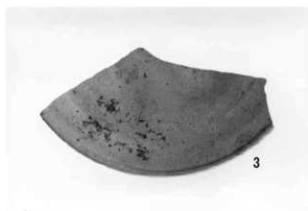
Ⅲ. 調査の概要

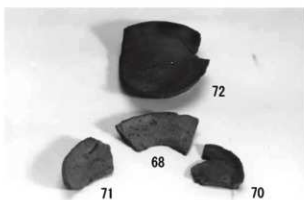
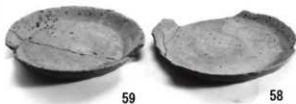
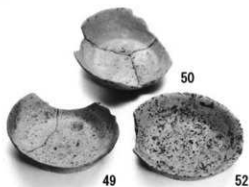
遺物 No.	出土遺構	種 別	器 形	法 量			色 調		調 整		胎 土	備 考	登録番号
				口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	外面	内面	外面	内面			
1 遺 団	SK11	須恵器	蓋	(12.75)	(3.6)	2.6	灰、灰黄	同転ナダナダ	同転ナダナダ	同転ナダナダ	精良(石黄、黄母)		200505 00091
2 遺 団	SK11	須恵器	蓋		(7.1)	(1.7)	灰	灰	同転ナダナダ	同転ナダナダ	良好 C3a程度の 石黄を少量含む	ヘタ記号	200505 00089
3 遺 団	SK11	須恵器	蓋	(14.6)		(1.25)	灰	灰	ヘタ切り ヨコナダ	ヨコナダ	黒砂粒	転用破	200505 00093
4 遺 団	SK11	土師器	皿	(15.3)	11.1～ 11.2		にぶい黄	にぶい黄	ヘタ切り ヨコナダ	ヨコナダ	黒砂粒 3mm程度 少量含む、赤色粒子		200505 00079
5 遺 団	SK11	土師器	皿	17.9	14.6	1.9	黄	黄、灰	同転ナダナダ	同転ナダナダ	精良 黄母、赤色粒子		200505 00147
6 遺 団	SK11	須恵器	杯				灰白	灰白	同転ナダナダ	同転ナダナダ	精良	ヘタ記号	200505 00090
7 遺 団	SK11	土師器	杯		(8.6)	(2.3)	にぶい黄	にぶい黄	ヘタ切り ヨコナダ	同転ナダナダ	黒砂粒 赤色粒子	スタンプ跡	200505 00068
8 遺 団	SK11	土師器	杯	(13.2)	(7.8)	3.45	黄黄、黄	黄	同転ナダナダ	同転ナダナダ	精良 黄母、赤色粒子	ヘタ記号	200505 00017
9 遺 団	SK11	土師器	皿	15.8	11.8	(2.1～ 2.2)	黄	黄	ヘタ切り ヨコナダ	ヨコナダ	黒砂粒	ヘタ記号	200505 00078
10 遺 団	SK11	土師器	杯	(12.8)	8.0～8.1	(4.4～ 4.6)	黄	黄	ヘタ切り ヨコナダ	ヨコナダ	黒砂粒	ヘタ記号	200505 00065
11 遺 団	SK11	土師器	杯	(12.6)	(8.2)	(3.75)	黄	黄	ヘタ切り ヨコナダ	ヨコナダ	黒砂粒 赤色粒子		200505 00067
12 遺 団	SK11	土師器	杯	(13.6)	(8.2)	(3.3～ 3.5)	にぶい黄	にぶい黄	ヘタ切り ヨコナダ	ヨコナダ	黒砂粒 少量の赤色粒子	ヘタ記号	200505 00061
13 遺 団	SK11	土師器	杯	(12.6)	(8.4)	(3.3～ 3.5)	黄	黄	ヘタ切り ヨコナダ	ヨコナダ	黒砂粒 赤色粒子	ヘタ記号	200505 00064
14 遺 団	SK11	土師器	杯	(13.45)	(8.4)	4.95	にぶい黄	にぶい黄	同転ナダナダ	同転ナダナダ	精良 黄母、赤色粒子	ヘタ記号	200505 00145
15 遺 団	SK11	土師器	碗	(15.8)	(8.6)	(5.6)	黄	黄	ヘタ切り ヨコナダ	ヨコナダ	黒砂粒		200505 00076
16 遺 団	SK11	土師器	杯	(13.1～ 13.4)	8.4～8.6	(3.1～ 3.4)	にぶい黄	にぶい黄	ヘタ切り ヨコナダ	ヨコナダ	黒砂粒 赤色粒子		200505 00071
17 遺 団	SK11	土師器	杯	(13.2)	(8.8)	(3.6～ 3.7)	黄	黄	ヘタ切り ヨコナダ	ヨコナダ	黒砂粒		200505 00072
18 遺 団	SK11	土師器	杯	12.7	9.0	3.3	黄	にぶい黄	同転ナダナダ	同転ナダナダ	精良 赤色粒子		200505 00015
19 遺 団	SK11	土師器	杯	13.5	8.25	3.5	黄	にぶい黄	同転ナダナダ	同転ナダナダ	精良 赤色粒子		200505 00012
20 遺 団	SK11	土師器	杯	12.15	8.8	3.7	にぶい黄	黄	同転ナダナダ	同転ナダナダ	精良 石黄、赤色粒子		200505 00146
21 遺 団	SK11	土師器	杯	12.6	7.9	3.55	にぶい黄	黄、灰黄、灰	同転ナダナダ	同転ナダナダ	精良 赤色粒子		200505 00011
22 遺 団	SK11	土師器	杯	13.85	9.2	3.2	にぶい黄	黄	同転ナダナダ	同転ナダナダ	精良 赤色粒子		200505 00013
23 遺 団	SK11	須恵器	碗	(13.0)	(6.95)	4.4	灰	灰	ヘタ切りナダ 同転ナダナダ	同転ナダナダ	黒砂粒(石黄、 灰石、黄母)		200505 00088
24 遺 団	SK11	土師器	碗	15.1	8.85	5.8	明赤黄～ 土黄、黄	赤黄	同転ナダナダ	同転ナダナダ	精良		200505 00091
25 遺 団	SK11	土師器	碗	16.5	9.9	5.8	黄、黄黄、黄	黄黄～黄	同転ナダナダ	同転ナダナダ	精良 赤色粒子		200505 00002
26 遺 団	SK11	土師器	碗	(15.0～ 15.2)	8.8	(5.2～ 5.6)	黄	黄	ヘタ切りナダ 同転ナダナダ	同転ナダナダ	黒砂粒		200505 00077
27 遺 団	SK11	土師器	蓋	8.0		(4.65)	黄	黄黄、黄	ナダ	ナダ	黒砂粒 石黄、 黄母、赤色粒子		200505 00016
28 遺 団	SK11	土師器	脚付盤	22.3		(6.9)	にぶい黄	にぶい黄	同転ナダナダ	同転ナダナダ	精良 赤色粒子		200505 00003
29 遺 団	SK11	土師器	甕	24.95		(12.2)	にぶい黄	にぶい黄	ヨコナダ 黒目	ヨコナダ 黒目	黒砂粒(石黄、石黄、 少量の黄母)赤色粒子		200505 00099
30 遺 団	SK11	土師器	甕	(29.15)		(11.6)	黄、灰黄	黄	ヨコナダ 黒目	ヨコナダ 黒目	黒砂粒(石黄、石黄、 少量の黄母)赤色粒子		200505 00097
31 遺 団	SK11	土師器	甕	(30.8)		(20.8)	黄、赤黄、 灰黄	明赤黄	ヨコナダ 黒目	ヨコナダ ナダ・押え	黒砂粒		200505 00096
32 遺 団	SK11	土師器	甕	28.4		(20.3)	黄、黒	黄～灰黄	ヨコナダ・押え 黒目	ヨコナダ ナダ・押え	黒砂粒(石黄、石黄、 少量の黄母)		200505 00095
33 遺 団	SK11	土製品	羽口			(14.2)	にぶい黄	にぶい黄			石黄(石黄、石黄、 少量の黄母)赤色粒子		200505 00093
34 遺 団	SK11	土製品	羽口			13.2	にぶい黄	にぶい黄			石黄(石黄、石黄、 少量の黄母)赤色粒子		200505 00094
35 遺 団	SK11	土製品	土罐	4.15	1.8	1.8	黄黄黄～ 灰黄	黄黄黄～ 灰黄			黒砂粒(石黄、黄母、 少量の黄母)赤色粒子		200505 00144
36 遺 団	SK11	土製品	土罐	4.75	1.8	1.7	黄黄黄～ 灰黄	黄黄黄～ 灰黄			黒砂粒(石黄、石黄、 少量の黄母)赤色粒子		200505 00139
37 遺 団	SK11	土製品	土罐	4.5	1.6	1.7	黄黄黄～ 灰黄	黄黄黄～ 灰黄			黒砂粒(石黄、石黄、 少量の黄母)赤色粒子		200505 00138
38 遺 団	SK11	土製品	土罐	4.0	1.85	1.8	黄黄黄～ 灰黄	黄黄黄～ 灰黄			黒砂粒(石黄、石黄、 少量の黄母)赤色粒子		200505 00135
39 遺 団	SK11	土製品	土罐	4.2	1.9	1.8	黄黄黄～ 灰黄	黄黄黄～ 灰黄			黒砂粒(石黄、石黄、 少量の黄母)赤色粒子		200505 00124
40 遺 団	SK11	土製品	土罐	4.5	1.8	1.7	灰	にぶい黄			黒砂粒(石黄、石黄、 少量の黄母)赤色粒子		200505 00140

III. 調査の概要

別当山遺跡出土遺物観察表②

遺物 No.	出土遺構	種 別	器 形	法 量			色 調		調 整		胎 土	備 考	登録番号
				口径(長)	底径(幅)	高(厚)	外面	内面	外面	内面			
41 新 塚	SK11	土製品	土罐	4.1	1.8	1.75	褐色、灰質				細砂(石炭、重質、 2mm以下の砂を含む)		200505 00119
42 新 塚	SK11	土製品	土罐	4.5	1.65	1.7	褐色、灰質				細砂(石炭、重質、 2mm以下の砂を含む)		200505 00130
43 新 塚	SK11	土製品	土罐	4.45	1.85	1.8	褐色、灰質				細砂(石炭、石炭、重質、 2mm以下の砂を含む)		200505 00129
44 新 塚	SK11	土製品	土罐	4.55	1.7	1.65	暗褐色、灰質				細砂(石炭、石炭、重質、 2mm以下の砂を含む)		200505 00134
45 新 塚	SK11	土製品	土罐	4.95	1.85	1.6	暗褐色、灰質				細砂(石炭、石炭、重質、 2mm以下の砂を含む)		200505 00128
46 新 塚	SK11	土製品	土罐	5.1	1.8	1.7	暗褐色、灰質				細砂(石炭、石炭、重質、 2mm以下の砂を含む)		200505 00121
47 新 塚	SK12	土師器	甕	(16.8)		3.2	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	同軸ナデ	同軸ナデ	細砂(赤褐色砂子、 金雲母)		200505 00208
48 新 塚	SK12	土師器	甕	(22.0)		3.6	赤褐色、 灰質	赤褐色	同軸ナデ	同軸ナデ	2mm程度の砂粒、 赤褐色砂子、金雲母		200505 00209
49 新 塚	SK12	土師器	杯	12.55	8.4	3.3	にぶい赤褐色 暗褐色	にぶい赤褐色	ヘラ切り 同軸ナデ	同軸ナデ	赤褐色の砂粒、 赤褐色砂子を含む		200505 00198
50 新 塚	SK12	土師器	杯	13.9	8.7	3.0	にぶい赤褐色	褐色	ヘラ切り 同軸ナデ	同軸ナデ	赤褐色の砂粒、 赤褐色砂子を含む		200505 00169
51 新 塚	SK12	土師器	杯	(12.6)	(9.1)	3.5	褐色	褐色	ヘラ切り 同軸ナデ	同軸ナデ	石炭、赤褐色の砂粒、 赤褐色砂子	スタンプ跡	200505 00174
52 新 塚	SK12	土師器	杯	12.7	8.0	3.7	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ヘラ切り 同軸ナデ	同軸ナデ	赤褐色の砂粒、 赤褐色砂子を含む		200505 00170
53 新 塚	SK12	土師器	杯	(16.2)	9.5	5.3	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ヘラ切り 同軸ナデ	同軸ナデ	赤褐色の砂粒、 赤褐色砂子を含む		200505 00204
54 新 塚	SK12	土師器	杯	16.7	8.45	6.2	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ヘラ切り 同軸ナデ	同軸ナデ	赤褐色の砂粒、 赤褐色砂子を含む		200505 00203
55 新 塚	SK12	土師器	杯	16.3	9.75	6.4~6.8	乳赤	乳白赤	ヘラ切り 同軸ナデ	同軸ナデ	2.5~1.0mmの砂粒を 含む、赤褐色砂子		200505 00207
56 新 塚	SK12	土師器	杯	(13.9)	7.5	4.6	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ヘラ切り 同軸ナデ	同軸ナデ	赤褐色の砂粒、 赤褐色砂子を含む		200505 00205
57 新 塚	SK12	土師器	杯	(13.6)		2.5	灰白赤	灰白赤	同軸ナデ	同軸ナデ	細砂少量含む 赤褐色砂子		200505 00168
58 新 塚	SK12	土師器	甕	16.35	12.9	1.85	褐色 にぶい赤褐色	褐色	ヘラ切り 同軸ナデ	同軸ナデ	細砂少量含む 赤褐色砂子		200505 00180
59 新 塚	SK12	土師器	甕	15.8	12.6	2.1	褐色	褐色	ヘラ切り 同軸ナデ	同軸ナデ	石炭、赤褐色 赤褐色砂子を含む		200505 00177
60 新 塚	SK12	土師器	甕	(17.9)	(13.4)	1.9	白赤	白赤	ヘラ切り 同軸ナデ	同軸ナデ	2.5mm程度の砂粒 赤褐色砂子、白砂子		200505 00176
61 新 塚	SK12	土師器	高杯	(21.7)		(4.1)	褐色	にぶい赤褐色	同軸ナデ	同軸ナデ	細砂少量含む 赤褐色砂子		200505 00211
62 新 塚	SK12	土師器	甕	(27.7)		(7.3)	褐色	にぶい赤褐色	ナデ	ナデ	砂粒を含む(石炭、 白砂子、赤褐色砂子)		200505 00225
63 新 塚	SK12	土師器	甕	(19.5)		(9.8)	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ヨコナデ 網目白	ヨコナデ 網目白	2mm程度の砂粒、 赤褐色砂子、赤褐色砂子		200505 00224
64 新 塚	SK12	土師器	甕	(18.8)		3.5	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ナデ	ナデ	細砂(石炭、重質、 赤褐色砂子)		200505 00219
65 新 塚	SK12	土師器	鉢	(34.6)		(10.9)	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	褐色 にぶい赤褐色	ヨコナデ 網目白	ヨコナデ 網目白	2mm程度の砂粒、 赤褐色砂子、白砂子		200505 00222
66 新 塚	SK12	土製品	土罐	(3.6)	1.5	1.2	にぶい赤褐色				灰質、赤褐色砂子		200505 00186
67 新 塚	SK12	土製品	土罐	4.3	1.5	1.4	にぶい赤褐色				赤褐色、石炭、赤褐色砂子		200505 00185
68 新 塚	SK64	土師器	甕	(8.4)		1.2	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ナデ	ナデ	灰		200505 00149
69 新 塚	SK65	土師器	甕		(8.2)	(5.2)	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	ナデ	ナデ	灰		200505 00153
70 新 塚	S P41	土師器	甕	(3.2)	(5.5)	0.75	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	赤切り ヨコナデ	ヨコナデ	灰		200505 00154
71 新 塚	S P46	土師器	甕	(8.1)	(6.0)	(1.65)	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	赤切り ヨコナデ	ヨコナデ	灰、2mm程度の砂粒		200505 00159
72 新 塚	S P61	土師器	灯明基	8.4	4.8	1.75	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	赤切り ヨコナデ	ヨコナデ	灰(赤褐色の灰質)		200505 00164





報 告 書 抄 録

ふりがな	べつとうやまいせき だいいちじちょうさ							
書 名	別当山遺跡 第1次調査							
シリーズ名	久留米市文化財調査報告書 第219集							
編 著 者 名	塚本 映子							
編 集 機 関	久留米市 文化観光部 文化財保護課							
所 在 地	〒830-8520 福岡県久留米市城南町15-3 TEL: 0942-30-9225 FAX: 0942-30-9718 Email: bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp							
発行年月日	2006 (平成18) 年1月31日							
ふりがな 所収遺跡名	コード 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東緯 ° ' "	調査期間	調査面積	調査の原因
別当山遺跡 第5次調査	久留米市 山川町 南追分	40203		33 ° 18 ' 36 "	130 ° 33 ' 58 "	20050513 ～ 20050602	135㎡	宅地開発に 伴う発掘調査
所収遺跡名	種 別	種 別	主な遺構		主な遺物		特記事項	
別当山遺跡	集落跡	奈 良 ～ 平 安	土 坑 3基 ビット 多数		黒耀石剥片 須恵器、土師器		土坑より出土した遺物の中に、器内面にスタンプを施したものや、ヘラ記号を有するもの、また、一点のみではあるが転用硯も出土している。	
要 約								
調査面積が些少であり、遺跡全体を把握するには検討材料が少ないが、出土遺物に転用硯破片があることや、器内面のスタンプを施すものがあるなど、興味深い遺物が出土しており、識字層の関係する集落の一部である可能性が伺える。検出土坑のうち一基中より輪羽口が出土しているが、奇しくもその付近は確認トレンチによる攪乱をうけており、壁面に一部焼けた跡が窺えたものの、詳細がわからなかった。付近には山本郡街の比定地とする説のある地域があることから、それらに関係する人々の痕跡を残す集落とも考えられるが想像の域をでない。								
土木工事の届出日		平成17年4月25日			遺物の発見日		平成17年6月8日	

別 当 山 遺 跡

—第1次調査—

久留米市文化財調査報告書 第219集

2006年1月31日

発 行 久留米市教育委員会

福岡県久留米市城南町15-3

編 集 文化観光部 文化財保護課

印 刷 谷印刷株式会社

久留米市山川安居野3-15-5